



燦爛と照らし出す太陽の光を受けて笑顔もまぶしいさんさん山城の利用者・職員たち

農福連携 さんさん山城 先駆け

ノウフク・アワードグランプリに

京田辺 活躍 障害者 社会へ

京田辺市にある障害者就労支援事業所で農福連携センターの「さんさん山城」(新免修施設長、藤永実センター長)と「農福連携」は、中央省庁などが横断的に構成する農福連携等応援コンソーシアム主催「ノウフク・アワード」で最高位となるグランプリを獲得した。

昨年受賞した優秀賞を上回る栄誉に沸き、さらなる意欲を燃やす。聴覚をはじめ身体、知的障害がある利用者らが日ごろ活動する「さんさん山城」は2011年4月に開所。

市役所に近く、市街地の同じ様に見相や保護司会も同居。

ワンコインランチがファンを増やすコミュニケーションカフェを併設し、だれにもオープンなコンセプトが心とませるムードを醸し出す。

少子高齢化は進み、担い手不足の農業と障害者雇用の充実を目指す両分野を結ぶ先駆者で、架け橋となっている。

生産物や加工品の質と信頼度を高める「ノウフクJAS」「ディスプレイ農山漁村の宝」「JGAP」の認証・選定が続き、中央官庁や府、行政機関、マスコミの関心が寄せられる中、昨年度のグッドライフアワード(GLA)で環境大臣賞(部門賞)に選出。都内の表彰式では新

免施設長と植原さんが手話を交えてプレゼンテーションを行い、高官や審査員、受賞団体と交流を深めた。

農水省と他省庁、JA全中、経団連などで農福連携等応援コンソーシアムが20年に設立され、昨年度始まった「ノウフク・アワード」。

グランプリの受賞理由には、認定農業者となり地域農業を支え荒廃農地の活用と伝統野菜の継承などの長きにわたる農業経営をはじめ、6次産業化の実現で全国平均を上回る工賃の達成やひきこもり・高齢者・バラス

地域活性の原動力に

最優秀のグランプリ(2団体)に選ばれた今年度は、都内で今年8日に行われた表彰式に、開所前からの植原さんと、現在地であった市障害者地域活動支援センター職員でもあった田中容子さんの2人が出席し、「ここでも手話を交えた発表を行った。

農水省ノウフクアンバサダーを務めるタレントの城島茂さん(株)TOKIO取締役社長)がトロフィーを授与。

「さんさん」を以前に訪れ、利用者・職員とともに農作業体験に汗し、田辺なす井も食べた城島さんとも再び親交を温めたい」と声を強める。



TOKIO城島茂さんから植原さんにトロフィーを贈呈

ポーツアスリートなどの活躍の場の創出、ノウフクJASの商品価値を高めるなどを挙げている。

新免施設長は「農業法人や一般事業所、福祉事業者ら全国の4000以上の応募の中で小規模事業所にスポットが当てられた。販路がない、職員・利用者が集まらない、などの課題を経験し乗り越えてきた。同じような立場にある人の勇気になれば」と喜びをかみしめ「地域にひとつ恩返しができる。障害者が社会と地域で活躍し、周りを元気にする力、必要な存在になっているのをもっと知ってもらいたい」と声を強める。